第7回 認知症の本を読もう！

MEET★富田林コンクール

みんな
えがおと えがおで
てをつなごう！

認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちをめざして…

応募方法

「認知症」に関係のある本を読んで感想文を書いてください。400字詰め原稿用紙２枚以内。

原稿用紙は市販のものでもけっこうです。

応募資格　富田林市に住んでいる小・中学生

※１人１作品、未発表（自作）のものに限ります。

応募作品は原則として返却しません。

部門　小学校１～３年生の部、小学校４～６年生の部、中学校の部

課題図書　認知症に関する図書（小説・童話などジャンルは問いません）

保護者の方も一緒に読んでくれています！

応募先　裏面の応募票を添えて、郵送、または以下の窓口に持参してください。

〒584-8511　富田林市常盤町１番１号　富田林市役所高齢介護課

募集期間　令和２年８月３日（月）～９月３０日（水）必着

賞

選考により、最優秀賞（1点）、優秀賞（各部門より1点）、がんばった賞（各部門より1点）を決定し、受賞者には個別に表彰式の案内をします。表彰式に出席できない場合は、小中学校から表彰状をお渡しします。

保護者のかたへ

受賞者の氏名、学校名、学年、感想文の題名、図書名および感想文を市広報誌や「ほんわか新聞」で公表することがあります。公表を望まない場合は、応募票の「公表不可」欄にチェックしてください。

お問合せ先

富田林市高齢介護課　☎０７２１－２５－１０００・内線１８３（平日９時～５時３０分）

第７回　認知症の本を読もう！ＭＥＥＴ★富田林コンクール応募票

（ふりがな） 氏　名		学　年	年	性　別	
住　所	富田林市	学校名	小学校 中学校		
電　話	※保護者の方の携帯電話など日中連絡のつく番号をご記入ください				
本の題名				公表不可チェック □	

切り取って作品に添付してください。

テーマ：認知症（にんちしょう）

富田林市立図書館にあります！
よんでみませんか！？

本のタイトル	著者	出版社
おばあちゃんのさがしもの	文：おち　とよこ	
いつだって心は生きている	作：認知症ケア研究	
あかりさん、どこへ行くの？	著：近藤　尚子	
おじいちゃん、おぼえてる？	著：フィル・カミン	
★　ラブリーオールドライオン	作：ジュリア・ジャー	
わたし　大好き	作：リディア・バーデック	童話屋
★　おばあちゃんにささげる歌	作：アンナ・レーナ・ラウリーン	ノルディック出版
おもいではチョコレートのにおい	作：バーバラ・マクガイア	アールアイシー出版
バニラソースの家	作：ブリット・ペルッツィ	今人舎
よかったなあ、かあちゃん	文：西本　鶏介	
★　わすれたって、いいんだよ	著：上條　さなえ	
★　大好きだよキヨちゃん。	文・絵：藤川　幸之	
おばあちゃんのノート	文：小坂　直樹	
★　おもいでをなくしたおばあちゃん	著：ジャーク・ドレ	
おばあちゃんのきおく	著：メム・フォックス	
わたしのおばあちゃん	著：ヴェロニク・ヴァン・デン・アベール	くもん出版
忘れても好きだよおばあちゃん！	著：ダグマー　Ｈ．ミュラー	あかね書房
でもすきだよ、おばあちゃん	著：スー・ローソン	講談社
ばあちゃんの笑顔をわすれない	著：今西　及子	岩崎書店
おばあちゃん、おじいちゃんを知る本２	著：江頭恵子　編：小島喜孝　矢部広明	大月書店
こんとんじいちゃんの裏庭	著：村上　しいこ	小学館
ばあばは、だいじょうぶ	著：楠　章子	童心社
奮闘するたすく	著：まはら　三桃	講談社
おじいちゃんが、わすれても…	著：大塚　篤子	ポプラ社
だいじょうぶだよ―ぼくのおばあちゃん	著：長谷川　和夫	ぱーそん書房
NEW　スアレス一家は、今日もにぎやか	著：メグ・メディナ	あすなろ書房
NEW　おばあちゃん、ぼくにできることある？	作：ジェシカ・シェパード	偕成社
NEW　おばあちゃん	文：谷川　俊太郎	
NEW　うそつきにかんぱい！	作：宮川　ひろ	
NEW　おばあちゃんの記憶	作：エルヴェ・ジ	

図書館には認知症の本を集めたコーナーがあります！

認知症サポーター養成講座を受けて応募してくれる方もいます！

市役所にも認知症の本の貸し出しコーナーを設置！

★マークのついている本は、市役所高齢介護課でもかし出ししています。

連載サロン

（参考）第６回受賞作品
（「広報とんだばやし」令和２年９月号掲載）

MEET☆とんだばやし

～認知症になっても笑顔で暮らせる富田林～

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすためには、地域の人の理解が大切です。今後社会を担っていく子どもたちに、本との出会いから認知症に関心をもってもらうことを目的に「認知症の本を読もう！MEET☆富田林コンクール」を毎年開催しています。昨年度の「感想文の部」最優秀賞の作品を紹介します。

「『ばあちゃんの笑顔をわすれない』を読んで」

上本　幸太さん（第三中学校３年（当時））

この本を読んで感じたことが三つあります。

一つ目は、介護をすることの難しさです。私には九十一歳になる曽祖母がいます。年に二、三回しか会えないのですが、数年前から物忘れが酷（ひど）くなり、同じことを何回も言ったり、夢と現実の区別がつかなくなったりと認知症の症状が出てきています。してもらったことを忘れてしまい、してもらえないとイライラしたり、小さい声だと耳が遠いので聞こえず、大きな声で喋ると怒られているように感じたりと、介護している祖父母はとても大変そうでした。

二つ目は、高齢者をいたわることの大切さです。いつか自分も年をとって介護されるようになるかもしれないので、自分がこの立場ならどうしてもらいたいかをしっかりと考えて行動しなければならないなと思いました。

三つ目は、地域が一丸となって高齢者を支えることの重要性です。この本では、デイサービスと老人ホームでの介護について書かれており、「この町の人たちの福祉はこの町の人の手で」という部分があります。この本のように家族だけでは介護が難しくなった時、デイサービスの利用や老人ホームへの入所をしなければならないかもしれません。私の曽祖母も今は祖父母と自宅で暮らしていますが、今後認知症の症状がもっと進んだり、体が動かなくなったら自宅での介護は難しくなるかもしれません。地域全体で支えていくことの大切さを学ぶことができました。

全ての人は年をとります。介護を受けなければならないかもしれません。そのことを頭において高齢者の方と接していかなければならないと思いました。全ての人が楽しい老後を過ごすためには、全ての人が一丸となって支えていく必要があると、この本から学びました。

高齢介護課（内線 183）